

専門委員会開催報告

専門委員会名	「原子炉過酷事故に対する機構論的解析技術」研究専門委員会
会議種別	本会議 <u>幹事会</u> メール審議 その他*() *分科会、WG等具体的に記入のこと
開催日時	2022年 3月 1日(火)16:30~17:30
開催場所	Web開催(Webex)
参加人数	4名 守田主査、吉田幹事、山下幹事、木野幹事
議事	<p>第4回幹事会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2022AESJ春の年会企画セッションについて <ul style="list-style-type: none"> ● 1件ずつ質疑応答、最後にまとめの時間を取る形式で実施 ● 録画を許可する方向で進める(講師の方々には事前に確認する) ● 冒頭に専門委員会の趣旨を座長(守田主査)から説明 ● 議論の内容は軽水炉がらみが中心であるが、今後は高速炉も含む様々な炉に対して共通した議論をする方向で一致 ● 実験と解析をリンクさせるということも重要な課題と認識 2. 第3回委員会について <ul style="list-style-type: none"> ● 連休明け(5月頃)をめどに開催を予定 ● 講演者は電中研から提案があった MELCOR 解析は採用する。 ● それ以外の候補は以下の通りとする。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 規制庁:解析コードの開発と実験による検証 2. 三菱重工:デブリ広がり 3. 京大:デブリベッド計測 4. JAEA:デブリ生成過程の実験 ● 東大からご提案があった若手主体の企画セッションは引き続き検討する方向とする。 3. 議事録について <ul style="list-style-type: none"> ● 本委員会の議事録公開の要望が熱流動部会より来ていることを確認 ● これまでは公開を前提として、出席者の許可を得ていないが、今後は公開前提で出席者の許可を得ることとする。
備考	

2021年11月10日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第2回「原子炉過酷事故に対する機構論的解析技術」研究専門委員会
会議種別	<input checked="" type="radio"/> 本会議 <input type="radio"/> 幹事会 <input type="radio"/> メール審議 <input type="radio"/> その他*() <small>*分科会、WG等具体的に記入のこと</small>
開催日時	2021年11月9日(水)13:00~16:00
開催場所	Web開催(Webex)
参加人数	30名 守田主査、吉田幹事、山下幹事、木野幹事、 以下、委員(敬称略) 古谷、山路、木倉、高橋、武田、張、伊藤(啓)、伊藤(大)、渡辺、鈴木、堀江、原、星野、氷見、西田、手塚、飛田、堂田、永江、町田 以下、オブザーバー(敬称略) 間所、佐藤、田上、今泉、松本、岩沢
議事	<p>(1) 「原子力学会 2022 春の年会」企画セッションについて 吉田幹事より原子力学会 2022 春の年会における企画セッションの趣旨説明があり、委員より了承が得られた</p> <p>(2) SA 解析の現状と課題について 2 木野幹事より、機構論的 SA 解析手法における課題、SAMPSON/JUPITER 連成解析の取り組み状況についての講演があった</p> <p>(3) 詳細解析の現状と課題について 2 山下幹事よりシビアアクシデント詳細解析コード JUPITER の開発状況についての講演があった</p> <p>(4) 福島第一原子力発電所における原子炉圧力容器破損メカニズムの解明に向けた取り組み 間所委員より、JAEA が実施している原子炉圧力容器破損メカニズムに関する実験についての講演があった</p> <p>(5) SARNET の活動状況と INSS での SA 研究(仮) 西田委員より、SARNET の活動状況および INSS での SA 研究に関する講演があった</p> <p>(6) その他(今後の予定など) 守田主査より、今後のスケジュール(今年度は 2 回会合・企画セッション実施、来年度は 4~5 月に開催予定)についての方向性が示され、委員より了承が得られた</p>
備考	

専門委員会開催報告

専門委員会名	第3回「原子炉過酷事故に対する機構論的解析技術」研究専門委員会幹事会
会議種別	本会議 <u>幹事会</u> メール審議 その他*() *分科会、WG等具体的に記入のこと
開催日時	2021年10月12日(火)16:30~17:30
開催場所	Web開催(Webex)
参加人数	4名 守田主査、吉田幹事、山下幹事、木野幹事
議事	<p>1. 次回委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回候補日は以下の通りとする 第1候補:11/9 (13-16) 第2候補:11/12 (13-16) 第3候補:11/19 (13-16) ● 発表者(INSS、JAEA)のスケジュールを確認し、開催日を決定する ● 企画セッションタイトルや概要についても委員会内で確認する必要がある ● 機構論的に細かいところをやっても意味があるのか、どういご利益があるかどの程度の保守性があるのかを説明できるのか、などを委員会内で議論したい ● 第3回の予定、対面の有無などについても委員会内で確認したい ● 今年度内の対面開催は厳しく、第3回は来年度4月~5月を想定する ● 企画セッションについては吉田幹事、その他(今後の予定など)は守田主査が進行役を務める <p>2. 企画セッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 委員会セッションは持ち時間は90分であり4件は厳しい ● 詳細解析、JAEA実験、INSSの取り組みの3件に絞ることとする ● 熱流動部会から合同セッションにしてくれという要望があれば受諾する方向で検討 ● セッションの座長は守田主査が務める <p>3. 若手セッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東大からご提案があった若手主体の企画セッションは引き続き検討していきたい ● 次回幹事会(2022年1月頃を予定)にて内容を詰めることとする
備考	

2021年7月28日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第2回「原子炉過酷事故に対する機構論的解析技術」研究専門委員会幹事会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG等具体的に記入のこと
開催日時	2021年7月27日(火)16:30~17:30
開催場所	Web開催(Webex)
参加人数	4名 守田主査、吉田幹事、山下幹事、木野幹事
議事	<p>1. 次回議事内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回は2022年春の年会における企画セッションを念頭に置いた内容にする ● 議事としては、SA解析、詳細解析、実験は必須である ● 実験はJAEAの実験設備の紹介が候補となる ● 国際的な取り組みの紹介も必要であり、INSSに打診することとした ● 各発表ではロードマップとの対応を意識するようにしたい <p>2. 次回開催日について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月の金曜日を予定し、時間帯は13時から17時 ● JAEAやINSSに発表を依頼し、スケジュールを確認する ● 発表者のスケジュール確認後、全体でスケジュール調整する <p>3. 若手セッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東大からご提案があった若手主体の企画セッションも今後検討していきたい ● 研究専門委員会の中で企画するか、熱流動部会の若手セッションを活用するなど様々な方策が考えられる ● 次回幹事会(9月頃を予定)にて内容を詰めることとする
備考	

専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回「原子炉過酷事故に対する機構論的解析技術」研究専門委員会
会議種別	<input checked="" type="checkbox"/> 本会議 <input type="checkbox"/> 幹事会 <input type="checkbox"/> メール審議 <input type="checkbox"/> その他*() <small>*分科会、WG等具体的に記入のこと</small>
開催日時	2021年6月30日(水)13:00~17:00
開催場所	Web開催(Webex)
参加人数	<p>35名 守田主査、吉田幹事、山下幹事、木野幹事、古谷委員、木倉委員、高橋委員、大川委員、武田委員、張委員、斉藤委員、伊藤(啓)委員、伊藤(大)委員、渡辺委員、鈴木委員、堀江委員、野口委員、原委員、星野委員、西委員、西村委員、氷見委員、西田委員、手塚委員、飛田委員、堂田委員、永江委員、板倉委員代理(町田委員)</p> <p>以下、オブザーバー(敬称略)</p> <p>間所、佐藤、曾根原、田上、今泉、松本、岩沢</p>
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の趣旨説明 <ul style="list-style-type: none"> ● 守田主査より委員会の趣旨説明があった 2. 委員の自己紹介 <ul style="list-style-type: none"> ● 各委員より、専門分野などの自己紹介があった 3. SA解析の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ● 木野幹事より、SA解析コード SAMPSON に基づく 1F 解析の課題について紹介があった ● どこまで機構論的にできるのか、やるべきかについて議論がなされた 4. 詳細解析や実験の現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> ● 山下幹事より詳細解析の現状や紹介例について説明があった ● 詳細解析の Validation に向けた実験の現状や詳細解析の適用範囲について議論がなされた 5. 今後の進め方について <ul style="list-style-type: none"> ● 吉田幹事より、今後のスケジュールや最終成果についての案が示された ● スケジュールについて、1回あたり3テーマの講演、6~7回の会合で20テーマ程度の講演を予定することとした ● 2022年春の年会に向けて企画セッションを提案することとした
備考	

専門委員会開催報告

専門委員会名	第1回「原子炉過酷事故に対する機構論的解析技術」研究専門委員会幹事会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG等具体的に記入のこと
開催日時	2021年6月25日(金)18:00~19:00
開催場所	Web開催(Webex)
参加人数	4名 守田主査、吉田幹事、山下幹事、木野幹事
議事	<p>1. 今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後の大まかなスケジュール感について確認し、年3回~4回、3時間/回程度を想定することとした ● 1回の委員会で3テーマほどの発表があれば、9~16テーマ/年となり、1.5年で15~24テーマとなる <p>2. 委員会における議論の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 過酷事故は現象としてわからないことも多く、解析は難しい ● たとえ解析ができたとしても安全評価上インパクトがあるかどうかはわからない ● 詳細な現象を追うことで、解析結果にインパクトがあるかどうかを議論していく必要がある ● 熱水カロードマップとの関連性、関係性は今後の課題であるが、ロードマップの補完のための委員会とはしない ● 今後の2年間で以下のようなテーマによる発表を計画する SA解析(軽水炉・高速炉・ガス炉):7~8件 詳細解析:7~8件 実験(軽水炉・高速炉):7~8件 <p>3. 委員会のまとめ方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 企画セッション(2~3回程度)と学会誌を想定する ● 軽水炉・高速炉共通の課題なども抽出したい ● 軽水炉と高速炉の情報の行き来があまりないのは問題であり、今後の課題である ● 委員会は2021年6/1~2023/5/31(最長は2025/5/31)であるが、最低1年の延長はあるだろう
備考	